

神聖なロマンスの中に生きることによって  
神聖な三一の神聖な分与を経験する

聖書：エペソ 3:14-19. 雅 1:2-3. 3:6. 4:7. 15. 6:4. 8:6-7. 啓 19:7. 21:2

I. 最も純粹で、最も聖なる意味で、聖書は宇宙的な夫婦のロマンスです——  
キリストにある神は花婿であり、神の贖われた人は花嫁です——ヨハネ  
3:29. マタイ 25:6. 啓 19:7. 21:2. 22:17:

- A. 神は何世紀にもわたって、人とのロマンスを持ってきました。神が人を創造した目的は、配偶者を持つことです——啓 22:17。
- B. 神は愛する方であり、愛する方としてのご自身のかたちに人を創造しました。この事が意味するのは、神が人を創造したのは、人が彼を愛するためであるということです——マルコ 12:30. エペソ 3:14-19。
- C. 全聖書は神聖なロマンスです。雅歌は、このロマンスの要約です——雅 1:2-3. 8:14:
  - 1. 聖書はロマンチックな書であり、わたしたちと主との関係は、ますますロマンチックになるべきです——4:7。
  - 2. もしわたしたちと主イエスとの間に何のロマンスもなければ、わたしたちは宗教的なクリスチャンであって、ロマンチックなクリスチャンではありません——1:2-3。
  - 3. 全聖書は神聖な求愛の言葉です。わたしたちは聖書の中で、神がわたしたちの愛を追い求めているのを見ます——Ⅱコリント 11:2。
- D. わたしたちが神の求愛の言葉を守ろうとするなら、彼に対して応答する愛情深い愛を必要とします。このような応答する愛情深い愛は雅歌に記述されており、ここには愛する方と彼の愛する者との間にある愛の描写があります——雅 1:2-4. Ⅱコリント 5:14-15. ヨハネ 14:21, 23:
  - 1. 雅歌の主題は次のとおりです、「すばらしい結婚における愛の歴史は、個別の信者とキリストの愛の交わりにおける進展する経験を啓示する」——雅 1:2。
  - 2. 雅歌は、驚くべき生き生きとした絵であり、詩の形式で、花婿としてのキリストと、花嫁としての彼の愛する者との新婚の愛を描いています——2:4. 6:3. 7:11-12. 8:5-6, 14。

II. わたしたちは雅歌において、神聖な分与を経験することと神聖なロマンスの中に生きることとの関係を見ます:

- A. わたしたちが真に主を愛するなら、命における成長と造り変えを必ず持ちます——Ⅱコリント 5:14-15. 3:18。

B. 雅歌の追い求める者は、彼女の愛する方をととても愛しているので、神聖な分与を経験しており、命における彼女の成長には継続的な変化があります——雅 1:2-3, 4 後半, 9, 12, 15. 2:2, 14. 3:6-7. 4:7, 12-15. 6:4, 10, 13 前半。

C. 人が愛するものは何であれ、人の心全体、さらには人の全存在でさえ、その愛するものの上に置かれ、またそれによって占有され、所有されます——I テモテ 6:10-11. II テモテ 3:2-4. 4:8, 10 前半. テトス 1:8:

1. 「神を愛するとは、わたしたちの全存在——霊、魂、体を、心、魂、思い、力と共に(マルコ 12:30)——完全に彼の上に置くことです。これは、わたしたちの全存在を彼に占有していただき、わたしたちの全存在が彼の中で失われることです。その結果、彼がわたしたちのすべてとなられ、わたしたちは日常生活の中で、実際的に彼と一になります」(I コリント 2:9 のフットノート 3)。

2. 主イエスを愛するとは、彼を評価し、わたしたちの存在を彼に向け、彼に開き、彼を享受し、彼に第一位を与え、彼と一になり、彼を生き、彼になることです——マタイ 26:6-13. II コリント 3:16. マルコ 12:30. コロサイ 1:18. I コリント 6:17. ピリピ 1:20-21. 詩歌 366 番、2 節。

III. テルザとエルサレムは神の聖なる所、神の住まいを表徴し、神の聖なる都がそこを囲んでその保障となっています——雅 6:4 前半:

A. キリストを愛する者は、神と一になって神の住まいとなる時、神の目に美しいことテルザのようであり、愛すべきことエルサレムのようです。

B. キリストを愛する者は、復活においてキリストの昇天の中で生きることを通して、キリストの命の豊富において円熟し、神の建造、すなわち神の聖なる所とその保障となります——参照、創 2:8-12, 18-24. I コリント 3:9-12。

C. キリストを愛する者は、至聖所、天の聖なる所の内なる奥の間に、すなわち幕の内側に生きており、キリストの復活を経験した後、十字架を通してキリストの昇天を経験します——雅 4:8。

D. わたしたちは最上の愛をもって主を愛することによって、三一の神の中へと合併されて、彼の住まいとなります——啓 2:4. ヨハネ 14:20-21, 23. エペソ 3:17:

1. わたしたちと結合し、ミングリングし、合併することを神に渴望させるのは、神の中にある愛です。神と結合し、ミングリングし、合併することをわたしたちに渴望させるのも、わたしたちの中にある同じ愛です

— Iヨハネ 4:19, 8, 16。

2. 最上の愛をもって主を愛することによって、また神聖なロマンスのあらゆる面にあずかることによって、わたしたちは新エルサレム(拡大された至聖所)になります—雅 1:2-3, 2:14, 4:8, 6:4, 啓 21:9-10。

E. 神の聖なる所となるとは、キリストの命とその計り知れない豊富をもって成長し円熟して、建造されることです(キリストのからだの建造と関係がある) —エペソ 4:12-16:

1. 旧約で、神の建造はテルザとエルサレムで予表されています。新約で、この建造はキリストの有機的なからだです—エペソ 4:16。
2. からだの建造は有機的であり、命におけるわたしたちの成長と円熟にかかっています—15節。
3. 究極的に、このキリストの有機的なからだ(キリストの妻でもある—エペソ 5:25-32)の建造は、聖なる都、新エルサレムを究極的に完成します。新エルサレムは、至聖所の究極的完成、すなわち永遠における、神と彼の贖われた者との相互の住まいです—啓 21:2-3, 16, 22。

IV. キリストを愛する者は、キリストの命の円熟の中でシュラムの女となります。このことが表徴するのは、彼女がキリストの複製また複写となって、彼にふさわしい者となり、彼と結婚するということです—雅 6:13:

- A. 聖書がわたしたちに繰り返し告げているのは、神の意図が、ご自身をわたしたちと一にし、またわたしたちを彼と一(神格においてではなく、命と性質において同じ)にすることであるということです—啓 21:2, 22:17。
- B. わたしたちはどのように神聖な啓示の最高峰(神が人と成ったのは、人を命と性質において神とするためである)に到達するかを考察するとき、自分自身に信頼するのではなく、愛、力、あわれみである主に依り頼むべきであり、また主にわたしたちをあわれみの器、尊い器、栄光の器としていただくべきです—雅 8:5-6。